



島根県立三刀屋高等学校 掛合分校

校長 発 『ほんりゅう』

【4月号②】令和6年4月10日



■入学式式辞

みなみ出雲に舞う桜 校舎周辺の桜と木々の新芽が輝くうららかな春の日差しのもと、令和6年度島根県立三刀屋高等学校掛合分校入学式ができますことは関係者一同大きな喜びです。

本日は、掛合分校後援会会長 景山俊太郎 様、学校運営協議会会長 小川真里 様、PTA副会長 吉村 あつし 淳 様をはじめ、多数の来賓の方々のご臨席を賜り、入学式を挙行することができました。誠にありがとうございます。5年ぶりに多数の来賓の皆様、在校生全員が揃って同じ式場・空間で新入生の皆さんを迎えることができますことを大変嬉しく感じています。

29名の新入生の皆さん入学おめでとう。在校生、教職員一同、皆さんの入学を心から歓迎します。数ある高校の中から本校を選択してくれたことに感謝します。その選択に全力で応えることを最初に約束します。

本校は昭和28年、1953年に創立され、昨年創立70周年を迎えた歴史と伝統を誇る学校です。皆さんはこの伝統ある三刀屋高校掛合分校、愛称カケコーの生徒として、本日その第一歩を踏み出すわけです。

入学にあたり2つのことをお話しします。まず1つ目は、合言葉についてです。私は昨年度校長として着任し、カケコーの合言葉として『向き合う。その先に…』を設定しました。向き合うと聞いて皆さんの頭に浮かぶものは何でしょうか？人？もの？それとも悩みや課題？向き合うの意味を辞書で調べてみると「互いに正面を向いて対する」とあります。「現実に向き合う」「課題に向き合う」あるいは「自分に向き合う」・・・そのことばのニュアンスとしては、あまり触れたくないものに触れる、見たくないものを見るという感じでしょうか。つまり向き合うためには一定の“覚悟”や“つよさ”が必要といえます。からだの“つよさ”ではなくこころの“つよさ”ということです。皆さんは進路選択の際に本校を選択し、今この場所にいるわけですが、これまでの人生でどんな選択をしてきましたか？順調なことばかりではなく、辛い選択をしたこともあったでしょう。ただ、その時々悩みや課題に向き合い何らかの選択をしてきたことと思います。高校入学というこの機会に、これまでの自分に少し向き合ってみませんか？そして、これまで経験してきた多くの分岐点で決断をしてきた自分を認めてあげてはどうでしょうか。色々あったかも知れないけど今この場所にいるじゃないか。頑張ってきたね自分！向き合うその先には、きっと新しい世界、可能性が開けていると思います。

2つ目は、**自分を表現する方法**を見つけるほしいということです。表現する方法は、発表したり文章を書いたりすることだけではありません。部活動においてスキルアップを図ること、作品の制作をすること、あるいは自分の趣味や特技を深めていくことも自分を表現していく方法につながります。カケコーには、本物の地域密着、本物の少人数教育を教育活動の両輪として掲げ、皆さんが自分を表現できる場所・機会が数多くあります。もちろん学習面で自分を表現する方法だってありますね。学習や地域と協働した活動等にチャレンジしてみてください。自分を表現する

先は他者ばかりではありません。他者に対してではなく、自分に対して表現してみることも意味のあることです。自分のことは、自分自身が一番よくわかっていると思いがちですが、自分のことは、なかなか見えにくいものです。自分を表現するために、もう一人の自分になって自分自身の内面と向き合ってみませんか？一人ひとりに内在する可能性の芽は、ほかの人と比べるものではありません。その可能性の芽を見つけたら、自分なりの方法で少しずつ大きく育てていきましょう。その先に、あなた自身のパーソナリティーが形づくられていくはずですよ。そして、自分なりの方法で、自分を表現していきましょう。急がなくてもいいですよ。じっくりゆっくりと向き合ってみましょう。

今年度の合言葉には副題として英文も添えています。『**Face it. Beyond that...**』です。「Beyond」には、「～を超えて、～以上に」といった意味があります。今の自分を少し超えて、今以上の自分をめざして、今一度自分自身に向き合ってみませんか？

校訓にある志操堅固とは、自分の考えや志を、強い意志で守って貫くということです。まずは自分と向き合い、自分の考えや志を確かめていってはどうですか。皆さんの可能性は無限大です。皆さんが「その先に…」進んでいけるよう、私たち教職員は、努力を惜しみません。

保護者の皆様、お子様のご入学おめでとうございます。義務教育段階の親の立ち位置は、子どもに寄り添うことだったと思います。高校でも、基本は変わりませんが少しずつお子様の自立を促しながら過ごす3年間だと思います。お子様としっかり向き合いながらも時には少し離れてみるという関わり方を願います

最後に新入生の皆さん、失敗を恐れずたくさんの方に挑戦してください。マイクロソフトの創業者ビル・ゲイツ氏は「成功を祝うのもいいですが、もっと大切なのは失敗から学ぶことです」と言っています。ただ、決して頑張りすぎないでください。皆さんは、保護者にとっても学校・地域にとっても大事な宝物です。“よわさ”を見せること、助けを求めることは決して恥ずかしいことではありません。教職員、保護者、地域の皆さん、そしてうしろにいる先輩。皆さんを応援してくれる誰かが、必ずいます。頑張りすぎるちょっと前に相談してみてください。

新入生の皆さんが、一日も早く、カケコー生として歩み始めることを期待して、式辞とします。

令和6年4月10日

島根県立三刀屋高等学校掛合分校
校長 本間 達也